

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400527		
法人名	有限会社 アロー商事		
事業所名	グループホーム我が家 好間 こすもすユニット		
所在地	福島県いわき市好間町下好間字鬼越42-3		
自己評価作成日	平成26年 1月 4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「我が家」のように共同生活でありながらも、本人らしく明るい笑顔で安心して楽しく過ごして頂けるような環境づくりを目指しています。
 ・利用者様・ご家族様との関わりを大切にしており家族様と一緒に「生き生き」と過ごして頂けるよう職員一同努めております。
 ・入居者の希望を聴きながら季節の折々の行事をおこみ、また買い物や自由食、ドライブなどを計画 して四季を感じたり、楽しみやストレスの軽減に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で個人、近隣、学校、各種団体とコミュニケーションを図り、利用者とお互えあう機会を多くつくっている。
 家族とは平日頃から協力関係を築く努力をし、話し合いの場にも積極的に参加の呼びかけをしながらより多くの意見を受け入れている。
 管理者と職員はいつでも話し合える関係にあり、提案や意見を利用者中心のケアの改善に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が共有できるように理念は玄関・リビング・台所に掲示し、日々ミーティングで確認しあい理念の実践に向け努力している。	設立時に職員が集まって作り上げた『理念』を玄関・事務所・居間に掲示している。職員はミーティング時に確認し、共有化を図っている。ケアの実践に当たり、理念を心において取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やドライブ等での挨拶・声掛け等でコミュニケーションを図ったり、祭りなどの行事には「子供じゃながら」や「ひよっとこ踊り」等のボランティアの方々を招き交流に努めています。また、地元中学生の体験学習等も定着し地域とのふれあいの場を持っています。	事業所の一部をカラオケルームとして地域に開放していることから、日常的に地域住民との交流が行われている。地域ボランティアの訪問も広がり、中学校の体験学習も受け入れて、地域との交流は継続したものになっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を解放することで地域住民ボランティア等を積極的に受け入れ出来るように心がけている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度中期に会社体制の変更の事情により定期的な開催ができませんでしたが実施し、事業所の報告と共に家族様代表の方々と参加メンバーから意見や要望・助言を頂きサービスの向上に活かしている。	会議には利用者家族の出席を積極的に要請し、実現を図っている。会議に合わせて避難訓練を行い委員からアドバイスを受け、家族からも意見や要望を頂いている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括センターの方との情報交換や連携に組み、介護相談員の受け入れ等も行っている。	わからない点はすぐに出向くなど、行政当局や地域包括センターとは日常的に連携を取りあっている。事業所の状況や利用者の暮らしぶりを報告し、新たなケアに関する情報を得ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わずに利用者が自由に行動できるようになっており拘束をしないケアに取り組み、見守りを強化している。また、リスクがともなう場合は家族と話し合いを設け、身体拘束のマニュアルに沿って内容を認識してもらえよう努めている。	玄関にセンサーを設置し、外に出ようとする利用者に対しては職員全員の見守りで対応している。身体拘束をしないケアの意義と実践について、内部や外部研修で学んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の研修への参加やミーティング等を通して職員全員で虐待を見過ごされないよう防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加は行っているものの現在活用していない。今後必要となればすぐ利用できるように今後は管理者だけでなく他スタッフも学ぶ機会を設けられるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、契約書・重要事項説明書等で十分に説明して同意を得ている。また、疑問や不安な点がないかを尋ね理解していただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するなど気軽に意見を言うように工夫している。また、家族が訪問時には積極的に意見をお聞きし情報を共有している。内容については申し送り・ミーティング等で報告し反映させている。	家族会でのアンケートや家族からの聞き取りで意見を頂いている。出された外出支援の強化や歩行訓練、洗濯物の整理などの要望について、日常のプログラムにとりいれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の業務ミーティングを開催し職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	夜間の転倒防止に赤外線センサーを取り付けたり、職員の勤務シフトを見直して希望休日を取り易く改善するなど職員の提案が業務に反映されている。定期的なミーティングだけでなく、日常のケアのなかでも上層部は職員意見を取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件等を整え職場環境の整備に努めている。代表者が随時職員とコミュニケーションや面談等で意見等を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせて外部の研修を受ける機会を作っている。研修後は報告書にまとめて情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており研修会等で同業者との交流を図る機会を設けサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人・家族様と実態調査を行い希望・要望・思いを受け入れスタッフ間での情報等を共有しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいること、不安等に耳を傾け、今まで関わった方々を通して体験してきた事を伝えながら不安が解消出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況や問題と考えていることを聞き、必要とされている支援と一緒に考えながら提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや思い等に耳を傾け、同じ目線で一緒に生活し出来ることは自立してもらい、出来ないことはサポートを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度本人の様子を家族様にお伝えし、面会時には本人の状態や近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等に制限はなく入居されても馴染みの関係が途切れないように自由に面会や外出を行って頂いている。	親戚や友達の訪問を大切に、楽しい時間になるように事業所全体で歓迎し、継続的に交流できるよう支援している。住んでいた地域や美容室やスーパー、銭湯などの馴染みの場へ出掛ける機会を多く作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性に合わせてフロアにて座る席を工夫したり、レクリエーションの時間を設け良好な関係を保てるように職員が間に入って働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談・助言できるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や毎日の生活の中でコミュニケーションを大切に、表情や言葉に出来ない思い・訴えを把握する努力をしている。	職員は利用者数人を見る担当制にしている。日々のケアの中で真の希望や要望を把握できるよう努めている。難しい場合は家族から聞き取ったり、別の担当職員の意見を参考に複数の視点から思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や趣味、今まで生活してきた背景などを聞きだし把握に努め継続して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状況を個別記録や排泄・食事・バイタル記録にまとめ職員が情報を共有し、本人らしい生活を過ごせるよう状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況の中から担当職員とモニタリングを通し、本人・家族様、医療機関等と情報交換しながら介護計画を作成し、更新時期には家族様に説明を行い了承を頂いている。	毎月のモニタリングや日々の記録を参考に利用者、家族、医療関係者と共に意見を十分交換して、介護計画を作成している。利用者が状態変化した場合は、それに応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題点や気づいた点があれば、業務日誌に記録し、職員がすぐに確認できるように努め、意見交換し介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、予定以外の通院や外出等、要望に応じ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人のやりたい事・出来る事を安全に行えるよう支援し、買い物や散歩、中学生の職場体験での来所など楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療により、ホームドクターとしての役割を担っていただき安心してできる医療の確保が取れている。また、家族・本人の希望を聴きながら必要に応じ専門医院の受診を行っている。	入居時にかかりつけ医や医療機関の希望を聞き、継続するようにしている。利用者の要望がない場合は、往診や適切な協力医療機関での受診をすすめている。受診では家族や職員が付添い、受診結果は家族と事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を組み、状態の変化時は看護師に連絡、相談を行いすぐに対応が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して生活ができるように、協力医療機関と家族との連携を深め、入退院時にもスムーズな意見交換が出来るようになっている。家族・主治医と話し合いながらホームでの対応が可能な段階で早期に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会時に重度化した時の今までのホームでの例や状況をお伝えし、家族の意向を伺っている。最終的にはホームで出来る事を主治医と共に家族へ説明し話し合いをもち決定していく。	入居時に重度化や終末期について利用者・家族の希望を中心に話し合いをしている。事業所には家族が泊まれる部屋も確保され、入院や看取りなど家族と連携を取り、事業所としてできることの最善を尽くしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え初期対応の訓練や連絡方法を申し送りやミーティング時に再度確認し合っている。出来る限り消防署の普通救急救命講習を受講するよう促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、指導を受けながら夜間を想定し職員全員で避難訓練を実施している。また近隣住民へ災害時の協力を依頼している。	消防署を交えた訓練は年2回、自主訓練は年4回実施している。消防団長OBのアドバイスで夜間想定訓練も実施している。地域の青年会に災害時の支援を要請している。災害に備えて食料や燃料の備蓄を行っている。	地元消防団との協力関係を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴の把握、個別に応じた言葉かけを行っている。また、言葉使いについてプライバシーを損ねない様注意して対応している。	人生の先輩であり、耳が遠いなど利用者一人ひとりの状態をよく把握した「言葉かけ」を行い、利用者の人格を尊重している。職員はミーティングの中で利用者の誇りとプライバシーを損ねないケアの仕方について話し合い、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の個性を大切に、希望に沿った生活を送ることが出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、本人のペースで生活できるように支援している。家事活動・余暇活動・行事への参加等も、自己決定を大切にその人のライフスタイルに合った生活を提供出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、季節に応じた着替えが出来るように支援している。2～3カ月毎に理美容者が訪問、希望にあった散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自然な形での参加を励行し、盛り付けや皿ふきなど利用者と職員と一緒に出来るよう心がけている。月に一度自由食を設け、利用者の希望にあった食事等も提供できるように配慮している。	食事の時間は、利用者と職員が会話をしながら同じ食卓を囲みそれぞれのペースで楽しくすごしている。年中行事などのイベント時の食事は特に工夫を凝らし、月に一度は食材を購入し好きなメニューも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のニーズに合わせた対応が出来るようにしている。必要に応じ、主治医・栄養士の指導を受け、服薬の効果に配慮した提供を行い、必要な摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じ職員が見守りや介助を行い支援している。異常時には、歯科医に受診し悪化防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を活用し、一人ひとりの状況を確認し声掛けや必要に応じ見守り、介助を行い自立できるよう支援している。	排泄表のほかに、利用者の仕草や傾向を見逃さず声掛けして誘導している。車いすで対応出来ない利用者は2時間おきに声掛けをしている。付添いの時はプライバシーを守り、利用者の気持ちに十分配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関の指示を仰ぎながら自然排泄出来るよう心がけ、運動や水分摂取を意識して支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の体調や状況に合わせて実施している。入浴が難しい利用者様に対しては、無理のない安全な入浴支援や機械浴を取り入れて支援している。	入浴は毎日可能で、最低週2回の入浴支援を行っている。嫌がる利用者にはさりげない誘導を工夫して、自然に入浴できるようにしている。機械浴や普通浴を使い分け、利用者全員が「安全で楽しい入浴」になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を支援できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬の内容や注意の情報を共有し、援助している。また、服薬チェック表にて誤薬・服薬忘れ等ないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や情報をもとにレクリエーションや役割に取り入れたり、買い物やドライブ等気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って買い物や外出等に出かけられるように支援している。	近くにコンビニやスーパーがあるので、日々の買い物や近隣の散歩の支援を行っている。美容院や整骨院への外出や敬老の日のハワイアンズ小旅行、好天時には事業所前庭での日光浴など、外出の機会も多くし、利用者の状態に合わせた外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使い易くするように支援している	お金は家族様より預かり、預かり金として管理している。必要や希望に応じて一緒に買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示物を一緒に作成・掲示したり、時間帯でテレビや音楽・チラシを選んでその都度状況に合わせて話題作りに取り組んでいる。また、室温・日差し・臭い等にも配慮し居心地良い環境づくりが出来るように努めている。	時間の流れを分かり易くするため、手づくりの日めくりカレンダーや利用者が作成した貼り絵などが掲示されている。ソファやイスなどが利用者にとり使い勝手良く配置され、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各コーナーにベンチやソファを設置し、独りの時間や気のあった利用者様同士が自由に談話できる場を設け状況に合わせて随時工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	安心して落ち着いた生活が出来るように家族の協力を得ながらそれぞれの馴染みのある家具や家族との思い出の写真を置くなど、居心地のよい居室になるように配慮している。	利用者各人が寝具、小筆筒、鏡台、机、椅子と馴染みの物を自由に持ち込んで、その人らしい居室づくりをしている。手芸用品や家族の写真もあり、部屋のドアには利用者の「名字」に「家」を付けた大きなネームを掲げ、親密感を出すとともに、入室間違いを防いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等分かりやすく表示し、本人の出来る事を見極めながらリスク管理を行い、安全に自立に近い生活を送ってもらえるように努めている。		